

活動報告書

報告者氏名：水野 吉丈 田中 稔子 所属：東京都立江戸川特別支援学校 記録日：平成 26 年 2 月 14 日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年 高等部 3 年
- ・ 障害名 呼吸器障害（気管切開術後カニューレ装着） 知的障害
- ・ 障害と困難の内容

声門直下にできものができるために、呼吸が困難になり就学前に気管切開を行いカニューレを常時装着して呼吸を確保した。このために、発声が不可能になり、就学時（東京都立水元特別支援学校）から、マカトン法などの代替手段を模索してきた。しかし高等部で本校に進学した時点では、いずれも定着していなかった。現在は指差しや簡単な手を使ったサインで、意思伝えようとしている。

昨年度の「魔法のじゅうたん」の取り組みの時は、流暢トークを利用して、言葉でのコミュニケーションに取り組み、朝の会の発表や、家であったことを伝える、本人の好きなアニメの話をおだちに伝えることなどの活動ができた

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
今年度は本生徒が VOCA(DropTalkHD)にも取り組み、簡単なことはシンボルコミュニケーション。複雑な内容は流暢トークと、場面に応じて方法を切り替えることで本人の利便性を高めることをねらいとしている。
- ・ 実施期間 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
- ・ 実施者 田中稔子(高等部教員)
- ・ 実施者と対象児の関係 学級担任であり、学習グループの指導も担当している。

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

障害から発声が困難である。

ひらがな、カタカナの学習を主として行っている段階である。カタカナは形があいまいなところがあり、発音と文字が結びついていないこともあった。文字を書いているとひらがなとカタカナがまざることがあった。

漢字で自分の名前を表記したいという強い希望があった。

・活動の具体的内容

流暢トークを主に発表の時に使用した。（生徒会選挙の応援演説、現場実習のあいさつ、劇の発表など）

教員がわからないポケモンの名前を、流暢トークで伝える。

おえかキロクを利用して、ポケモンの絵と名前をカタカナで書く。

名前を漢字で書いて、おえかキロクのみるの機能を使って書き順をチェックする。

・対象児（群）の事後の変化

3文字ぐらい入力は確実であったが、それより多くなると順番や文字があいまいになることがあったので、流暢トークは確認しながら入力できるのが良かった。

発表ができることで、より活動に積極的になった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

発表ができるようになったことで、活動に積極的になることが多くなった。

・エビデンス（具体的数値など）

字を見たく、形で覚えていることに本人が気づくことができた。流暢トークで文字を選択した時に、はっきりとした様子で、文字と音の関係に気づくことができていた。

・その他エピソード（画像などを含めて）

流暢トークで教員があらかじめ書いておいたものを、「みる」で動かしてなぞることで、書き順の学習ができた。



おえかキロクによる字の練習



流暢トークに入力して劇で発表